

ぴっぷ



謹んで新年の
お慶びを申しあげます





新年ごあいさつ

代表理事組合長

大西勝視

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、ご家族お揃いで希望に満ちた新年をお迎えのことと謹んでお慶びを申し上げます。

皆様には常日頃からJAの事業推進に御理解と御協力を賜り心から御礼を申し上げ、今年も引き続き、ご愛顧下さいますようお願い申し上げます。

さて、昨年の営農は、田植え頃の低温もありましたが、夏には回復し、適度な降雨にも恵まれ、農作物の生育はとても順調に推移いたしました。

特に基幹作物の水稻では、上川の作況は「104」（網目1.7ミリで619kg）となり、豊作でありながら実感のない昨年と比べて、ずっしりと重みを感じた年となりました。

そして、コメ不足の報道から、米価への影響は昨年を大きく超える価格高騰となり、最近の生産資材など物価高騰の中、生産費を超える米価が実現いたしました。

ゆめぴりかの出荷における基準品率は60%を超え、良食味米の生産に当たりまして、組合員皆様の努力に心から敬意と感謝を申し上げます。

昨年、5月29日に食料・農業・農村基本法が25年ぶりに改正され、食料安全保障を基本理念として、その定義を「良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれを入力できる状態」とする食料安全保障の確立を明記すると共に、環境と調和のとれた食料システムの確立や農業の持続的な発展・農村の振興が規定されました。

そして、11月20日に開催されたJA北海道大会では、食料安全保障の強化と農業所得の確保、環境負荷低減への対応、人口減少局面での人材確保など、農業・JAを取り巻く環境や今後の展望を踏まえ、JAグループ北海道が一丸となって、「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」を実現するために意志結集をして組織・事業の強化を図ろうと決議されました。

本年がJA、組合員皆様にとって実り多い年となりますよう関係機関と共に連携を図りながら、JAぴっぴ町としても、JAグループの一員として、役職員一同、引続き事業推進に努力して参りますので、今年も引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。

北海道 比布町農業協同組合

代表理事組合長	大西勝視	信用担当理事	鎌田貴之
理事	山口剛志	営農担当理事	藤本敏之
理事	浅野章雄	代表幹事	森真須美
理事	中野譲	監事	山崎誠一
理事	北川雅樹	員外監事	大川智



令和7年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

代表理事会長 樽 井 功

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年北海道農業については、春先から天候に恵まれ、各作物の生育は全般的に平年よりも早く進んでおりました。しかしながら、夏場は猛暑・豪雨による記録的な高温多湿の影響を受け、各作物等の収量および品質に影響が出た年となりました。

近年、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが農業経営に甚大な影響を与えており、農業・農村を取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。

昨年には、四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法が改正され、現状に即した基本理念の見直しと、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」等の実現が盛り込まれました。政府は、初動5年間を農業構造転換集中対策期間と位置づけ、施策を集中的に実行するとともに、今年3月に食料・農業・農村基本計画を策定するべく引き続き検討を進めております。

J Aグループ北海道としては、食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立のために、農地の確保および適正利用の強化、食料・自給飼料等の安定生産・供給と環境負荷軽減の両立に取り組みながら、それを後押しする力強い政策支援を求めていくことが重要と考えております。

また、昨年は第31回J A北海道大会が開催され、「食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立」、「J Aの組織基盤の強化と健全な経営基盤の確立」、「アグリアクション北海道の推進による農業・食・J Aへの理解醸成」の3つの議案を決議いたしました。

今後、議案の達成に向けて、組合員・J A・連合会が一丸となって、生産現場の行動変容と組合員の意思結集による農政運動、J Aの経営管理の高度化やデジタル化の推進による業務効率化・生産性向上に取り組んでいかなければなりません。

さらに、消費者の皆様には、J Aグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させるとともに、効果的な情報発信により、今まで以上に農業・食・J Aに対する理解を深めていただき、J Aグループが提唱する「国消国産」の認知を広めてまいりましょう。

結びになりますが、本年は巳年です。巳（へび）は冬眠から目覚め地上に這い出すことから、冬に根をはった草木が芽を出し「新しい種子が生まれる」という意味があると言われ、転じて、巳年は力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を意味する年だと言われています。

この謂われにあやかり、本年が北海道農業の飛躍の起首となること、皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



新年にあたって

上川農業改良普及センター

所 長 山 本 正 浩

新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり比布町農業協同組合の組合員とご家族のみなさまに謹んで新年のお慶びを申し上げます。

また、平素より農業改良普及センターの活動に対し、ご理解とご協力をいただいております、心より感謝申し上げます。

さて、昨年も猛暑に悩まされた年でしたが、令和5年と比較してもその影響は抑えられていました。結果的には、ほとんどの作物で収量・品質は平年と同等～優る結果となりました。成果の背景には、基本技術の励行と、厳しい気象環境に対応し、新たな技術を導入するなど、柔軟な対応によってもたらされた結果であり、生産者や比布町農業協同組合役職員のみなさま、関係者各位の尽力に敬意を表します。

さて、令和の時代に入ってから、ほぼ毎年のように高温に悩まされてきました。また、令和6年は農産物価格は上がりましたが、資材費の高騰は留まることを知りません。また、日本の人口は減少の一途で、スマート化に期待がかかりますが、人の手で行わざるを得ない作業もまだ多く、一朝一夕にはできません。まずは資材費の高騰に対し現在の生産体系などを見直して、ムダやムラを最小限にしていくことや、限りある資源の地域内循環を積極的に取り入れていくことが重要です。また、労働力の確保については個人での対応には限界があり、省力化技術の導入と組織的な労働力確保を並行して取り組むことが急務と考えます。

普及センターとしてもみなさまと一緒に考え、地域の活力向上に繋がる支援を続けてまいります。今後もお気軽にご相談ください。

今年もみなさまがご健勝で営農し、豊穡の秋を迎えられますことをご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



上川農業改良普及センター



所 長 山本 正浩
次 長 松浦 準

〈比布町・当麻町・愛別町・上川町〉

地域第二係長	白井 淳 (水稲)	専門普及指導員
主査(地域支援)	田中 理恵 (水稲)	専門普及指導員
主査(園 芸)	草野 祐子 (園芸)	専門普及指導員
		専門普及指導員
		普及指導員

野原 弘義 (畜産)
堀田ひとみ (畑作)
平川 直人 (水稲)
井村 直樹 (畑作・園芸)
道畑 乃映 (園芸)

〈広域担当〉

主任普及指導員	若宮 貞人
主任普及指導員	上田 朋法
主査(担い手)	岡元 幸恵
主査(情報・クリーン・有機)	竹村 和泰
主査(高付加価値化)	松田 聖子



新年のご挨拶

比布町青果振興会

会長 菅原勝美

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より青果振興会の事業に対しまして、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

令和6年度の青果物の状況としては、積雪は平年並みの中、雪解けも順調に進みましたが、春先からの低温により品目によっては初期生育に影響が見られました。夏場は高温傾向となり、7月には大雨にも見舞われるなど、気候に左右される年となり会員の方々には栽培管理にご苦勞されたことと申します。最終的には全体として出荷量や販売金額とも前年をやや上回る見込みですが、一部品目では減収となる品目もあり、難しい結果となっています。

さて、昨年より青果振興会で要望していた、町単独補助事業にハウス等のメニューも加えて頂いており、また、農協でも本会に対して、新たにハウス並びに設備等の補助事業を実施して頂きありがとうございました。これらの事業を会員の方々が有効に活用させていただいており、今後の青果物の経営に反映していきたいと思っております。

また、昨年度より青果振興会としての単独事業で、会員の方々に農協への出荷実績に対しての補助を行わせて頂きました。青果振興会の事業のため予算が限られておりますが、次年度以降も継続したいと考えております。

最近、異常気象の影響で野菜の価格が高騰し、お客様には今までの野菜の価格のイメージもあり、買いづらくなっておりますが、現場では、種子・資材・肥料・人件費など、どれをとっても値上げが続いていますので、今後、お客様が抱く野菜の価格のイメージが少しずつ変わって頂ければ、会員の方々の生産に対する努力も報われていくことになると思っております。

最後になりますが、皆様のご健勝と本年はご努力が報われる実り多い年と成ることをご祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。



比布町青果振興会

会	長	菅	原	勝	美	理	事	島	聖	一
副	会	長	西	間	互	理	事	佐	藤	孝
副	会	長	岡	田	浩	理	事	小	西	諒
会		計	菅	原	雄	監	事	島		行
理		事	田	沼	栄	監	事	片	澤	英
理		事	野	口	邦					幸



新年のご挨拶

比布町畑作振興会

会長 牧野 充 記

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

日頃、畑作振興会事業の推進に当たり、当会会員をはじめ、関係各位よりご支援とご協力を賜りましたことに、改めて感謝申し上げます。

昨年秋には総選挙を経て石破新政権が生まれました。食料安全保障の観点から、農政においても生産者にとって期待できる施策が打ち出されております。

いまだ収束しない世界各地で起きている紛争や、本年1月に行われるトランプ大統領の再就任、為替相場における円安傾向など、資源、食料とも輸入に大きく頼る我が国には様々な影響を受けかねない事象が推測されます。

このような状況の中、我々生産者が取り組むべきことは、収量と品質の向上、そして、消費者に対し安全・安心な農産物を提供することです。当振興会では、栽培技術などの情報提供などにも取り組んでまいります。

昨年、秋播き小麦については、順調な雪解けやその後の順調な生育により良好な収量となりました。一部前年秋の播種時に天候不順の影響を受けた圃場では、出芽不足が見受けられました。大豆・そばにおいては、7月下旬の記録的降雨により一部湿害の影響を受けましたが、概ね平年作を上回る作柄となりました。牧草においては、一番草、二番草とも概ね順調に作業が進められました。

令和5年から取り組まれている子実用とうもろこしの栽培は昨年も順調に生育が進み、収量も前年を上回る結果となりました。収益は少ない反面、連作障害の回避、土壌改善、排水性向上などが挙げられます。輪作体系に加えることで後作への好循環が期待できます。

令和6年は「水活交付金の厳格化」と、それに付随した畑地化促進事業の取り組みが本格化され、町内においても畑地化が採択された農地が増えてきました。水田転作の枠を超えた畑作物振興を進めるため、当振興会も取り組んで参りたいと思います。

当振興会では例年の事業の推進とともに、町内の作業受託組織のご協力を頂き、畑作物振興を通して本町農業の更なる発展に繋ぐよう歩んでいきたいと思っております。

皆様におかれましては本年のご健勝とともに、豊穡の出来秋を迎えられます事を祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

比布町畑作振興会

会		長	牧	野	充	記	理	事	高	橋	祐	司
副	会	長	北	川	雅	樹	理	事	宮	崎	邦	夫
副	会	長	佐	藤	良	二	監	事	中	野		讓
理		事	上	西	雄	二	監	事	合	田	正	人
理		事	西	本	龍	二						



新年にあたり

比布町畜産振興会

会長 森 勝利

皆様には、健やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

また、旧年中はひとかたならぬご愛顧を頂きありがとうございます。

2024(回想)は・・・

牧草収穫作業においては、天候、生育不順により、例年より10日程作業開始が遅れ、6月下旬に収穫した高品質な乾牧草ロールは、約10%にとどまる次第でありました。また、7月24日の記録的(172mm)な降雨により、畑に浸水し乾牧草ロールが被害を受けた事が悔やまれます。

生乳事情は・・・

北海道の受託乳量は前年比102.5%で前年水準を上向っており、地域差はあるものの減少率が縮小傾向で推移しています。しかし、成分調整牛乳や加工乳、乳飲料は牛乳類トータルでも前年割れとなりました。生乳需給、生乳処理は『綱渡り』が予想されます。

素畜(黒毛和種・鶏)・・・

全国市場(44市場)における去勢の取引を市場別にみると、平均価格を上回った市場は北海道、東北、関東を中心とした13市場であり、北海道十勝60万4797円、南北海道59万9465円となりました。

物価高の影響による、和牛肉の消費低迷で枝肉相場も回復しません。よって、肥育農家の子牛の導入意欲が強まるようなものは、見当たりません。農林水産省は、高病原性鳥インフルエンザの発生予防、まん延防止に向け、家きん飼養者への衛生管理や防疫体制の確認などを強く要請しました。今期の発生数・殺処分羽数が過去最多だった2022年に匹敵する発生状況になっています。再度、エッグショックが起きない様、願う次第であります。

2025(展望)は・・・

輸入飼料や肥料などの高騰を受け、地域内での耕畜連携が一層重要になっています。酪農家と集落営農法人、和牛農家と飼料生産受託組織など連携の形はさまざま。ウクライナ危機や円安の影響が長期化している今般、2023年の輸入牧草はここ3年で6割以上高く、このため輸入依存からの脱却に向けて国産へ切り替えが進み、粗飼料自給率は2023年には80%に増えました。道内の集落営農組織が契約した極短穂型の発酵飼料(WCS)用稲の作物が、酪畜生産者に需給され、牧草と比較しても栄養度、嗜好性においても、差異がなく生産性向上に注目されています。道内各地では、酪畜農家が水田飼料作物生産協議会を立ち上げるなど、耕畜連携の輪が広がっています。

政府は2027年度以降、飼料用米の水田活用の直接支払交付金(水活)を『交付金対象から外すべき』だと提言しています。今必要なのは、耕畜連携の推進に向けた支援であります。地域現場からは、転作田でのWCS用稲や牧草栽培を主飼料に転換する農家が増えるのではないかと、声も上がっています。(課題)

輸入資材の高騰対策だけでなく、環境負荷の軽減や飼料自給率向上など、あらゆる課題に対応し循環の輪が途絶えない様、需要拡大に向けて、一層の努力を続けていく所存でございます。引き続きご指導のほど、よろしく願いいたします。冬の寒気が身にしみる頃となりました。今後とも、ご家族皆様の安全を心から祈っています。



比布町畜産振興会

会	長	森	勝	利	監	事	大	倉	涉
副	会	長	熊	谷	監	事	大	熊	勝
会		計	森	浩					幸



新年のごあいさつ

J A び っ ぶ 町 青 年 部

部 長 池 田 良 平

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。旧年中は組合員ご家族、J A び っ ぶ 町をはじめ各関係機関の皆様方に青年部活動に対しましてご理解ご協力ご助言を頂き誠にありがとうございます。

昨年を振り返りますと、1月1日に石川県能登半島地震が発生し多くの尊い命が失われました。亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、政府の支援による1日も早い復旧・復興を心から願います。

夏頃は令和の米騒動が連日言われ価格の高騰、店頭から在庫が無くなるという事態が起こり、販売者、消費者どちらも大変だったかと思えます。秋になっても米の価格は高値を推移し、生産者の立場として嬉しい反面、米の消費減少が起こるのではないかと不安になります。生産コスト増にとともに、販売価格も上がっていますが消費者の方々にはご理解頂き、引き続き美味しいお米を食べて頂きたいと願います。生産者として安心、安定したものの作りをする為にも、青年部の仲間と協力して営農していけたらと思います。

最後になりますが、本年も諸先輩の方々、各関係機関の皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、青年部員そして各組合員皆様の今年1年のご健勝とご多幸を祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。



謹賀新年 J A び っ ぶ 町 青 年 部

部	長	池	田	良	平	理	事	菅	原	一	将
副	長	定	岡	伸	之	理	事	奥	山	和	浩
副	長	稲	場	雄	哉	理	事	今	城	浩	貴
会	計	合	田	正	人	監	事	今	野	勝	貴
理	事	岩	渕	彬	人	監	事	廣	瀬	幸	寛



年末年始業務(営業)日程



(令和6年・7年)

JAびつぶ町

部門 月日	事務所 資材店舗 農機研修センター	金融店舗	ホクレン 比布給油所
12月27日(金)	平常営業 大掃除(業務納め)	平常営業	平常営業
12月28日(土)	休業	休業	平常営業
12月29日(日)	休業	休業	平常営業
12月30日(月)	休業	平常営業	平常営業
12月31日(火) (大晦日)	休業	休業	短縮営業 8:00~17:00
1月1日(水) (元日)	正月休業	正月休業	正月休業
1月2日(木)	休業	休業	休業
1月3日(金)	休業	休業	休業
1月4日(土)	休業	休業	平常営業
1月5日(日)	休業	休業	平常営業
1月6日(月)	平常営業	平常営業	平常営業



比布町米麦改良協会

会 副 委 委 委 委 委	会 会	長 長 員 員 員 員	大 村 御 作 佐 大 浅 中	西 中 困 田 藤 熊 野 野	勝 一 正 恵 康 勝 章	視 徳 寛 一 則 幸 雄 讓	委 委 委 委 委 監 監	員 員 員 員 員 事 事	牧 高 安 林 浅 白 森 奥	野 橋 達 野 井 山	充 祐 順 敏 仁 真 和	記 司 一 裕 志 淳 須 美 浩
---------------------------------	--------	----------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	----------------------------	---------------------------------	---

令和6年度水稲の生育状況などについて

令和6年の生育期間中は、平均的に高温となりましたが、播種・移植時期を遅らせているところもみられました。収穫期間中は、天候に恵まれ、収穫作業は順調に進みました。品質的には、蛋白質含有率は昨年より低くなりました。被害粒(乳白粒、腹白粒)について、本町は全体的に腹白粒、白未熟米は見られませんでした。

令和6年度の生育状況

令和6年度の融雪は3月中旬以降の気温が平年並に経過したこともあり、融雪期は4月8日と平年並(平年4月8日)でした。水稲の播種作業は例年よりやや早く行われ、播種期は4月18日で平年より2日早くなりました。耕起作業は、融雪が早くほ場の乾燥が進んだため平年より5日早く始まりましたが、その後は断続的な降雨のため作業はやや滞り、耕起最盛期は4月28日で平年より2日早い状況となりました。移植作業は平年よりやや早く経過し、5月9日から始まり、5月21日に移植期を迎え、5月27日までに概ね終了しています。移植の前半は、気温は高めで苗の活着は良好でしたが、5月21日以降は低温で経過し、強風と相まって植え傷みも見られました。その後気温の上昇とともに生育は回復し、成苗「ななつぼし」の幼穂形成期は6月26日で平年並(±0日)、7月1日の生育調査では、平米当たり茎数は平年比97%となりました。また、出穂期は7月22日で、平年より1日早くなりました。出穂後も高温の状態が続いたため登熟は進み、成熟期は平年より3日早い9月7日となりました。収穫作業については、収穫始9月9日と平年より6日早まりました。その後も作業は順調に進み、収穫終は平年より5日早い9月29日となり、収量は、北海道農政事務所発表の作況指数で上川地方104となりました。(619kg/10a)

ゆめぴりかの基準品率

米粒中の蛋白質含有率は、昨年よりも低くなりました。全道的にも同様の傾向で、昨年と比べ蛋白質含有率は低下し、おおむね平年並となりました。その結果、「ゆめぴりか」の基準品割合は製品ベースで88%となりました。

令和6年度の主要病害虫発生状況について

○いもち病発生状況について

発生状況は「多」でした。比布町では穂いもち病、節いもち病が確認されました。7月に湿度の高い日が続いたこともあり病害虫防除所より注意報も発令されましたが、大きな被害には至りませんでした。地域への蔓延を予防するためには予察と防除の実施が重要となります。

○ヒメトビウンカの発生状況

発生状況は「やや少」でした。ヒメトビウンカによる縞葉枯病は、町内で発生が散見されましたが、発生は軽微であり、減収に至る水田はなかったと思われます。予察と適正防除の実施が重要となります。

○カメムシ(アカヒゲホソミドリカスミカメ)

平年と比べて「やや少」でした。水田の病害虫については、一時アカヒゲホソミドリカスミカメの発生が多くなる傾向でしたが、適切な防除により被害を最小限に抑えることができました。

○乳白粒や腹白粒などの白未熟米について

ななつぼしの一部に胴割粒の発生が見られましたが、乳白粒や腹白粒などの白未熟粒は登熟期間中のほ場水分が確保できたことなどにより、問題となるほどの発生は見られませんでした。



11月
16日

JAびっふ町青年部 家族交流会

JAびっふ町青年部では、11月16日(土)にラウンドワンスタジアムにて家族交流会を開催し、部員及びご家族28名が参加しました。参加した子供達は、スポッチャのキッズコーナーやスポーツコートなどで元気に汗を流し、

あっという間の時間となりました。終了後には焼き肉で交流を深め、楽しい交流会となりました。



11月
20~22日

年金友の会 温泉湯治

JAびっふ町年金友の会では、令和6年11月20日~22日の2泊3日、層雲峡「ホテル大雪」にて温泉湯治を行いました。今年は26名と大勢の会員の皆様にご参加を頂き、1年のご苦勞を温泉で癒し、楽しい食事会となりました。来年の参加もよろしくお願いたします。



担い手に役立つ 営農技術や流通 盛りだくさん

購読のお申し込みはJAへ
購読料 1ヵ月2,520円(税込)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
<http://www.agrinfo.co.jp>

協同の輪を広げ 自己改革を進めよう JAグループ情報共有運動

JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

第4回「農政活動の仕組み」について

コロナ禍による農畜産物の需給緩和、肥料・飼料をはじめとする生産諸資材の価格高騰、気候変動の抑止に向けた環境負荷軽減の取組み、年々甚大化する自然災害による農地・施設等の損壊、深刻な労働力不足など、我々JAグループの努力だけでは解決できない課題が山積しております。

食料安全保障の強化、持続可能な北海道農業の確立のためには、我々の努力だけではなく、国の支援が不可欠であります。そのカギとなるのが農政活動であります。

農政活動とは、組合員一人ひとりの声をJA・地区で集約し、みんなの声として、農業・農村・JAに理解のある国会議員に対し、現場の実態を届け、その課題の解決につながる政策を実現してもらう一連の活動・運動であります。

令和5年度は、食料・農業・農村基本法の改正や、作目別の経営安定対策をはじめとする農林水産予算の確保に向け、JAグループ北海道では農政活動を展開しました。その結果、予算の確保をはじめ、さまざまな政策支援が実現しました。しかし、これですべての課題が解決する訳ではなく、生産現場には、まだまだ課題が山積しております。

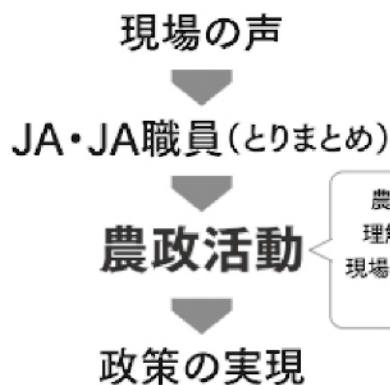
生産現場の実態を届け、我々の求める政策を実現させるためには、国会議員による国や行政への積極的な働きかけが重要です。そして、そのような議員を支えていくことも農政活動の柱の一つであります。

国会(政治)は数が力です。国を動かすには、国会に一人でも多くの農業やJAの理解者を増やすこと



ことが重要であります。そのために、我々JAグループの代弁者として、先頭に立って多くの国会議員に働きかけ、農業やJAの理解者を増やし、まとめていくことができる議員、つまり、JAグループの代表議員が必要なのです。

東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちらから

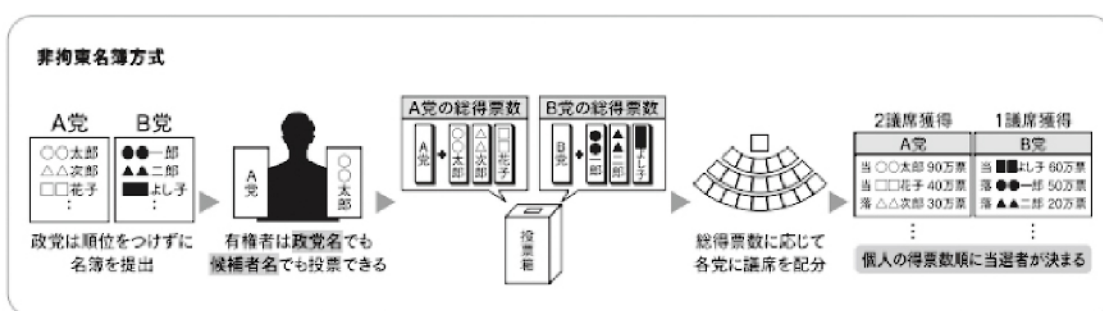


JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

第5回「参議院選挙の仕組み」について

農政活動の柱の一つが、生産現場の声を代弁し、国や行政に積極的な働きかけをしてくれる議員を政治の場に送り出し、支えていくことです。そして、JAグループにとって最も重要なのが「参議院選挙比例代表」です。

参議院選挙では、各都道府県を区域とする「選挙区選挙」と、全国を一つの単位をする「比例代表選挙」の2つの選挙制度で成り立っています。「選挙区」は、北海道から立候補している候補者名を書いて投票します。「比例代表」は、全国から立候補している「候補者名」または「政党名」を書いて投票します。この「比例代表」は非拘束名簿方式といって、政党の得票数に応じて議席が配分された後、その政党の中で個人名の得票数が多い順に当選が決まる仕組みとなっています。



つまり、「比例代表」の投票用紙に「候補者名」を記入しないと応援したい候補者に票は入らない仕組みになっています。

「比例代表」には、さまざまな業界や団体が代表候補を送り出しています。多くの得票数を獲得し、当選順位を上げるよう活動しております。これは、高い順位で当選した候補者は、党内での発言力が増し、政策実現に近づくことができるからです。言い換えると、得票数で、我々JAグループの力が測られていることとなります。

国会(政治)は数が力です。国を動かすには、国会に一人でも多くの農業やJAの理解者を増やすことが重要



です。そのために、我々JAグループの代弁者として、先頭に立って多くの国会議員に働きかけ、農業やJAの理解者を増やし、まとめていくことができる議員、つまり、JAグループの代表議員が必要なのです。

東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちらから



JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

第6回「東野ひでき北海道後援会の活動経過」について

過去の参議院選挙(比例代表)での危機感を踏まえ、改めて組織選挙の意義を共有の上、候補者の認知度を高め、組織力の結集による運動を徹底することが大切です。

北海道後援会では、JA役職員、組合員、青年部・女性部盟友、各連合会・関係機関など東野ひでき氏の応援の輪を広げていくために、農政学習会等を通じて「なかまづくり運動」を展開してきました。

「ひできのなかまづくり運動」

「ひ」…ひとりでも多く! 「で」…できることから! 「き」…きょうから始めよう!

各々が、応援を依頼する「なかま」を確実に2名以上特定し、さらに、その「なかま」1名につき、新たに2名以上の「なかま」を特定し、「なかま」を広げていきましょう。

令和6年3月29日に東野ひでき北海道後援会を設立して以降、主に以下の取り組みを実施しております。

- JA総会・総代会にて東野の動画映写や組織結集に向けた決議等を実施。
- JA・連合会にて推薦手続きを完了。
- 道連常勤役員・地区会長他によるJA等巡回。
- 東野による全国連・全国機関、都府県連合会・JA等巡回を実施。
- 東野による道内各連合会、関係機関、取引先、JA等巡回(励ます会)を実施。
- 農政学習会の実施。
- 各種資材の活用。
(農政学習教材(資料・動画)、東野ひでき紹介動画、室内掲示用ポスター、リーフレット、運動推進ステッカー、名刺貼付用シールなど)
- JA広報誌での連載と北海道農政ジャーナルの発行。
- SNS(HP、LINE、Instagram、YouTube、Facebook)による活動報告。
- 青年部・女性部による東野ひでき親衛隊「動画大作戦」の実施。(毎月1回YouTube配信)



今後は、上記の取り組みに加え、屋外用政治活動用ポスターの掲示(野立て看板の設置)、東野出席のもと道内12地区の巡回等や、青年・女性組織の道・地区・単組段階での推薦手続き等を実施していきます。

農業・JAを取り巻く厳しい状況下において、JAグループ北海道の政策提案を実現し、組合員の営農と生活を守るためには政治力の強化が極めて重要であります。

農政学習運動等を通じて組織選挙の意義を共有し、引き続き「なかまづくり運動」を広げていきましょう!

【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年まで連載いたします。次回(第7回)は、「業界を代表する候補者を選ぶことの重要性」について報告します。

東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちら



東野ひでき北海道後援会

JAへの就職希望者100%就職(令和5年度実績)

令和7年度 第3回学生募集

令和7年度より
通学制開始

- 定員40名 ●男女共学 ●1カ年 ●寮完備(個室) ●通学制開始
- 受験資格:満27歳未満(令和6年4月1日現在)/大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日:令和7年2月2日(日) ●願書受付:令和7年1月6日(月)~1月24日(金)消印有効
- オープンキャンパス随時開催中

JAグループ職員養成校



一般財団法人

北海道農業協同組合学校

〒069-0834 江別市文京台東町 43-1

☎0120-918-417 【JAカレッジ】で検索

理事会報告

次の案件について協議し、承認決定されました。

第10回理事会

令和6年11月18日

- ①農事懇談会開催について
- ②道常例検査指摘事項に対する改善状況報告書について
- ③役員報酬審議委員の選出について
- ④学識経験役員の定数について

第11回理事会

令和6年12月16日

- ①定期監査報告
- ②令和6年度 期末見込みについて
- ③出資金の異動について
- ④令和4・5・6年産米追加精算並びに6年産くず米等精算について
- ⑤年未年始の業務日程について
- ⑥職員の年末手当支給について
- ⑦福利厚生資金の貸付利率改定について

金融共済課 課長補佐 柳本 浩介 さんが、昨年10月28日に逝去致しました。
心よりご冥福をお祈りし、ここにご報告致します。

〈退職者〉

大変お世話になりました。組合員皆様の益々の発展をご祈念申し上げます。

生産資材課 資材係 小岩 晴南 (こいわ はるな)
令和6年10月31日付

JAびっぷ町公式 SNS

JAびっぷ町では、公式SNSで、JAびっぷ町からのお知らせや、営農情報などを発信しています。広報誌では掲載できないカラー写真や動画なども配信していますので、忙しい時でも情報を受け取ることの出来る公式SNSを是非ご利用ください。



LINE公式アカウント

JAびっぷ町からの無線放送の一部をお届け。



Facebook

JAびっぷ町からの営農情報や、各課からのお知らせなどをお届け。



謹んで新春の
お慶びを
申し上げます

平素のご厚情に心より
感謝申し上げます
本日も変わらぬご交際のほど
何卒よろしくお願い申し上げます

組合長 大西勝視
参事 浅野仁志
信用担当理事 鎌田貴之
営農担当理事 藤本敏之

《内部審査室》

室長 大仙裕之
嘱託職員 広瀬利正

《管理課》

課長 高木明日香
課長補佐 牧野由希
臨時職員 川本未咲

《金融共済課》

課長 鎌田貴之
(貯金)
係 小笠原ありさ
係 宮越万依
係 大槻紅音
(共済)
課長補佐 福島敦
係 北村勇登
係 高橋ゆうな
臨時職員 菊地友美
(融資)
課長補佐 茂野靖子
係 福井佐葵

《営農課》

課長 藤本敏之
課長補佐 越智悠太
係 岡本拓実
係 木下春菜
準職員 福井睦美

《営農販売課》

課長 吉見和宏
課長補佐 三島邦浩
係 谷口大樹
係 大洲陽弘
係 野林雅哉
係 向井龍也
係 野澤志帆
臨時職員 阿部洋二
臨時職員 羽原詩織
嘱託職員 蔵田誠

《生産資材課》

課長 今井隆
(資材)
課長補佐 寒河江友博
係長 大野功郎
係 太田慎吾
係 村澤悠真
係 片倉直子
(農機)
課長補佐 勘崎貢司
臨時職員 太田正二
臨時職員 石附早紀
(給油)
係長 大崎一広
準職員 原田真千子
臨時職員 芦野道男
臨時職員 荒谷貴



JAびっぷ町くみあいだより Vol.482

比布町農業協同組合

〒078-0342 北海道上川郡比布町西町3丁目5番14号 TEL0166-85-3111

ホームページ <http://www.ja-pippu.or.jp/>

●発行/令和7年1月 ●発行者/大西 勝視 ●編集責任者/営農課